

令和7年度 上越市障害者自立支援協議会 第1回全体会

1 日時

令和7年8月8日（金）午後2時～午後3時15分

2 場所

上越市役所木田第一庁舎4階401会議室

3 次第

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 内容

①令和7年度における各部会の取組状況について（報告、意見交換）

②次期障害福祉計画の策定に向けた障害のある人等の実態調査について（説明）

③その他

(4) 閉会

4 出席者（敬称略）

- ・参加者：大久保座長、平原こども部会長、江部相談支援部会長、
植木くらし副部会長、山口権利擁護部会長、小林部会長、
鈴木、岩佐、重野、阿部、榎本、木花、松原、伊藤、西山
- ・事務局：健康福祉部 星野部長
福祉課 丸田課長、渡邊副課長、小松係長、北島主任、
すこやかなくらし支援室 神戸上席保健師長、
こども発達支援センター 福田所長

5 内容（要旨・敬称略）

① 開会

② 挨拶

【事務局 星野部長】

- ・本日は大変お忙しい中、また暑い中、ご出席いただき、そして、日頃から市の障害福祉施策の推進に当たりまして、多大なるご理解、ご尽力をいただいていることにお礼を申し上げます。
- ・さて、7月からの渇水で、皆様には、日々、節水にご協力をいただいていることにまずもって感謝申し上げます。
- ・大変なご不便をおかけし、申し訳ないところであるが、市としては、この間、断水を回避するため、出来得る対策を講じているところである。
- ・昨日行った市長記者会見で、9月10日まで断水はしないとあったが、皆様方からは、節水の取り組みに引き続きご理解、ご協力をいただければと思っている。
- ・さて、当市の障害福祉施策については、3か年計画である「上越市障害者計画・第7期障

害福祉計画・第3期障害児福祉計画」に基づき、進めているところである。

- ・本計画については、今年度は2か年目となるが、各専門部会または当事者部会の皆様からは、昨年度に抽出した課題に対する施策の実行・検証の取組を進めているところである。
- ・それぞれの部会の皆様におかれては、日々の業務でお忙しい中、様々な形や手法を変えながら、検討を重ねていただいていることに対し、改めて感謝申し上げます。
- ・本日は各部会から今年度のこれまでの取組状況を報告していただくこととしている。
- ・また、令和9年度を初年度とする次期障害者福祉計画の策定に向けたアンケート調査に当たり、アンケートの手法や内容について、皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと考えているので、本日はよろしく願い申し上げます。

【大久保座長】

- ・本日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。
- ・今年度は2年目ということで、令和6年度の課題抽出の土台作りから、少しずつ各部会においても、計画に沿って実行、進めていただいているところ。
- ・障害のある人が、自らの希望に基づき、地域で安心して暮らしていけるよう、そういった環境をどう提供していくかについて、私たち一人一人の知恵と連携が必要になってくると思っている。
- ・本日は、令和7年度の各部会の活動の方向性について共有を行い、部会を越えて連携していければと思っている。
- ・それから、次期計画に向けてのアンケート調査について、忌憚のないご意見をいただければと思っている。

③ 内容 (1) 令和7年度における各部会の取組状況について（報告、意見交換）

【事務局 北島】※資料1-1により説明

- ・令和7年度各専門部会である4つの部会におけるチーム編成の動きを体系図として事務局で整理した。
- ・令和7年度においても専門部会ごとに様々な議論をしていただいているが、各専門部会から派生したチームが編成されたことから体系図としてまとめた。
- ・資料右側には体制、チームの考え方をまとめ、これに基づき、現在、各チームでもって活発に議論いただいている状況である。
- ・後ほど、各部長から部会ごとのそれぞれの進捗を説明いただくこととし、事務局からこの体系図の概要を説明させていただく。
- ・例えば、こども部会のワーキングチームについて、研修の企画、実施を行うチームとなるが、体制の考え方として部会の構成員のみで構成し、今年度限りで時限的なチームをワーキングチームと位置付けている。
- ・また、こども部会と相談支援部会のプロジェクトチームについて、部会の構成員以外も含めた構成とし、今年度限りで時限的なチームをプロジェクトチームと位置付けている。
- ・最後に、くらし部会の強度行動障害支援者ネットワークチームについて、部会の構成員以外も含め構成し、今年度限りではなく今後も続いていく非時限的なチームをネットワークチームと位置付けている。

《質疑応答なし》

【こども部会 平原部会長】 ※資料 1-2 により説明

- ・こども部会では、「支援が必要なこどもの相談体制」というテーマに沿って、2つの項目に取り組んでいる。
- ・まず、関係機関の連携として、人材育成と連携強化という目的の下、年3回の研修会を開催する予定にしている。
- ・保護者支援というポイントについては、ライフステージの切り換えにおける保護者サポートという視点で話を始めたが、今年度の10月から就労選択支援事業がスタートするというので、この事業が、学校卒業を迎える生徒や学齢期の児童も対象になる制度であるということで、非常に幅広く、学校教育関係や福祉関係などが連携してこの事業を考えていかなければならないのではないかとという意見があり、プロジェクトチームを作って検討を始めたところである。
- ・先にこのプロジェクトチームで検討し、その後、サービスのあり方の検討ということで、本来この部会の一番目的とするところと思っているが、発達支援と保護者の就労や生活を支えるためのニーズをどのように受け止め、地域の中でのサービスのあり方を考えていくかということについて検討していきたいと考えている。
- ・また、保護者の自助力の向上に向けた取組ということで、この点についても、今年度の後半に意見交換をしていきたいと考えている。
- ・人材育成及び連携強化のための研修会については、3つの研修を予定しており、1つ目として7月4日には医療的ケア児の支援者向け研修を実施したところである。
- ・2つ目は、多問題家族に属する児童に関わる支援者向け研修として、10月22日に、すこやかなくらし支援室と共に開催する予定である。
- ・3つ目は、教育と福祉の連携として、学校教育関係の市内小・中学校の支援学級のコーディネーターの先生を対象として、障害福祉サービスの情報共有をし、実際にサービスを利用した児童の将来的なイメージを具体的に持っていただき、現状を踏まえて児童の皆さんにどのような支援が必要なのかを一緒に考えていただくという内容で研修会を行いたいと考えている。
- ・いずれにしても、研修会には実際に関わっている皆さんから集まってもらい、具体的な事例を通して学んでいく研修会にしたいと考えている。
- ・就労選択支援については、前述のとおり、こども部会のメンバー以外にも協力いただきながら、就労選択支援をこの地域でどのように進めていくとよいかということを検討しているところである。

《質疑応答》

【参加者 松原】

- ・ライフステージについて、どのようなステージを考えているか教えていただきたい。

【こども部会 平原部会長】

- ・高等部、もしくは高校生の年齢から成人に達してサービスが切り替わるタイミングで、どこにどう繋がっていくとよいか、また、就労選択の点では、保護者が関係機関と連携しながら、本人が自身の将来を考え、就労選択できるような流れができればよいということで検討をスタートしたところである。
- ・新事業の就労選択支援が出てきたので、まずは、新事業を整理した上で、教育との連携は絶対的に必要であることから、合わせてどのような連携体制ができるかを検討している。
- ・保護者が混乱なく、そして、本人も混乱なく卒業を迎えられる、そして成人の障害福祉サービスに移行できるような流れを作っていければと思っている。

【参加者 松原】

- ・資料に「保護者の自助力の向上」とあるが、支援者の資質の向上と我々保護者の自助力の向上は両輪であると考えている。
- ・我々は当事者の立場で集まる機会を作りながら、情報交換を行っている。
- ・先ほどのライフステージについて、我々としては、学童期がスタートではなく、生まれてから就学前の「療育」というステージがまずスタートラインであると考えている。
- ・次に、学校が担当する「教育」というステージ、それから次に、卒業後の「福祉」というステージ、最後に、「介護保険」という4つのステージがあると考えており、最初の「療育」のステージからいろいろと取り組んでいくべきであると考えている。
- ・保護者がどれだけ力をつけているかが重要であり、その上に今度は「教育」のステージが重なってくることから、「療育」がしっかりしてないと「教育」に移行しても思うように先生に伝わっていかない。
- ・さらに、それを先送りにして「福祉」に投げると、一層複雑になって困ってしまうという、ステージが重なってしまうという感じは受けており、やはりスタートの「療育」が重要で、それにより学童期の「教育」のステージにおいて大きく動きが違ってくるものである。
- ・私たちは機会を作ってこのような話をしているが、参加してほしいと思う方には参加していただけないという課題がある。ステージが上がっていくにつれて、当事者間の格差がついてしまっているというのが現状として認識している。
- ・例えば、「療育」においては、1歳半健診や3歳児健診の際に疑い有りとなった場合に、保護者が任意で対応するのではなく、何か制度的なものを作り、そこで情報提供したり話し合ったりする機会を作るといったことをしていかないと、個人個人の単なる話し合いではなかなか進まないのではないかと考えているがいかがか。

【こども部会 平原部会長】

- ・こども部会では、「療育」のステージに関することも話題になった。
- ・現状、就労選択支援について検討している最中であり、その部分について検討が進んでいないところがある。今後の検討の参考にさせていただく。

【相談支援部会 江部部会長】 ※資料 1-3 により説明

- ・今年度も「持続可能な相談支援体制の構築」をテーマにしている。

- ・その理由は、相談支援専門員のなり手がなかなかいない中、退職者もいるということで、相談支援専門員の数が減ってきている一方、障害福祉サービスを希望する障害児・者の方は、年々増えているということで、今のやり方では、やはりパンクしてしまうというようなことが考えられるということから、この令和という時代における持続可能な相談支援体制は何かということも、もう一度考えましようということである。
- ・今年度の取組方針は二つある。
- ・まず一つ目は、計画相談支援の提供体制の検討で、ここにセルフプランの導入に向けた検討を、昨年度から引き続き行っている。
- ・それから二つ目は、災害時への対応で、昨年度、話し合いの中で「やはり情報をきちんと伝えることが大事だ」ということになり、新潟県防災ナビの利用についての普及啓発を行っていくことになった。
- ・新潟県防災ナビの普及啓発に関する今年度の取組状況として、広報上越7月号、市公式SNS（LINE、X）、市のデジタルサイネージ（イオン、市役所木田庁舎）により情報発信した。また、まずは支援者が知らなければならないだろうということで、各研修会の中で、都度周知を図っていくこととしている。各部会員は必ず1回は、何かの機会に周知をしていくということにしている。
- ・また、避難先には福祉避難所と指定避難所がある中で、自身の避難先が不明又は、避難先が認識していた場所と相違していたということも考えられることから、避難場所や個別避難計画が分からないといったことがないように、必要な対策について考えることとしている。
- ・セルフプランの導入については、市内の主任相談支援専門員にサービス提供体制の一つの選択肢として、必要性や導入について、そのスキーム、流れも含めて検討しているところである。
- ・セルフプランの提供体制については、やはり主任相談支援専門員からは「セルフプランを積極的に取り入れていくのか」という意見が出ている。
- ・この意見に対して、「あくまでも選択肢の一つとして、本人が、自身でマネジメントできる方。そして、相談員がいなくても、障害福祉サービスを自身で調整しますという方。また、計画相談支援という中では終決しているような方は、そう多くはないがいらっしゃるのではないかと考えており、そのような人には、自身でマネジメントしてもらう形があってもよいのではないかとという方向で話し合いを進めている。
- ・そうなった場合に、誰がフォローするのか。それから、プランを自身で作成するという事になった場面どのようなサポートが必要になるのか。それから、セルフプランなので全て自身一人で行ってくださいということではなく、その場面でのフォロー体制や障害福祉サービス提供事業者の皆さんに負担をかけないような仕組みを検討している。
- ・これまでの検討の中では、新規に利用される人にとってのセルフプランは難しいと想定しており、長らく障害福祉サービスを利用し続けてきている中で、きちんと関係ができており、本人が希望したり、或いは本人の自立のために必要だろうと支援者が考えたりする方に対しては、きちんと確認しながらセルフプランを導入していることが必要だろうということになっている。
- ・ただ、それまでに乗り越えなければならない想定されるハードルは他にもあり、対象者の基準やプランの書式、フローチャートなど、そのような点についても意見交換していると

ころである。

- ・今年度中にある程度の方向が出せて、来年度に導入をしていく。場合によっては再来年度くらいに導入というスケジュール感も含めて話しているところである。

《質疑応答》

【参加者 松原】

- ・セルフプラン導入について聞きたい。
- ・障害福祉には「本人抜きで物事を進めないで」というキャッチフレーズがある。
- ・いろいろと検討されている中に、当事者が全く出てこない。
- ・ただ、セルフプランは全国的にはかなり普及しているのは聞いているが、上越市としての状況の説明が全くない中で、水面下で進んでいるような感じがしてならない。
- ・検討のどこかで当事者に、上越市には3障害の団体があることから、当事者の意見も聞くという機会を作るべきと思う。
- ・今後、いろいろとトラブルが発生するのではないかなど、私自身も懸念があることから、ぜひそのような機会を作っていただきたいと要望する。

【相談支援部会 江部部会長】

- ・当然、当事者の意見無しでは、導入はないと思っている。
- ・そもそも当事者が希望しないとか、或いは当事者が反対しているところに無理にセルフプランを導入するという事は全く考えていない。
- ・この点については、土台として私たちの中にある。
- ・しかしながら、私が相談支援をやっている中で、一定数はこれ以上頻繁な訪問は不要で、計画が変わらなくてもよいという方がいらっしゃるから、そういった皆さんの選択の幅を広げるといような意味でやっている。決して当事者を抜きに進めようというつもりはないことを了承していただければと思う。

【参加者 松原】

- ・私の発言の趣旨は、個々への対応ではなく、全体に周知するということが必要ではないかということである。
- ・部会長は、個々の対応であって、やはり3障害の方たちの団体に対して、こういう検討を進めているという情報提供、当事者の意見を聞いて進めているという姿勢を見せていかないと私としてこれから報告するに困ってしまう。

【相談支援部会 江部部会長】

- ・現時点では、部会の中で検討している段階であり、支援者の中からも非常に様々な意見が出てきているような状況につき、もう少し見える形になった際に伝えたいと思っている。
- ・また、導入の時期については、先ほど、来年度ということを出したが、先になる可能性もあると考えている。
- ・松原さんからは育成会を通じてそのような話があるということ、前出ししてもらっても

構わない。

【参加者 松原】

- ・早い時期にお願いしたい。

【くらし部会 植木副部長】 ※資料 1-4 により説明

- ・今年度のテーマは「人材の確保及び重度障害者の地域での暮らしや中山間地の障害者の暮らし、身寄りなし問題等」である。
- ・取組方針について、昨年度は、強度行動障害のある方の支援について重点的に検討を行ってきたが、令和7年度ではそれ以外のプラスに関わる全体的なキーワードについて検討していく。
- ・具体的には、ヘルパー不足、重度訪問介護の活用、中山間地における障害のある方の支援、これには移動手段についても含んでいる。身寄りなし問題、障害のある方の住まいのあり方の5項目である。
- ・地域における周辺の暮らしについて、部会メンバーの関心事を複数取り上げる形で、かなりボリュームのあるような内容になっているが、検討を進めていきたいと考えている。
- ・強度行動障害のある方々への支援については困難ケースの検討や、人材育成のための研修会の検討会の開催をくらし部会とは別に設定する予定である。
- ・ヘルパー不足問題については、上越市社会福祉協議会の重野部会員から情報提供をいただいた。ヘルパーの活用の現状や、どれくらいのヘルパーが携わっていただいているのかということを提供いただいた。
- ・重度訪問介護の活用については、さくら園の野口部会員から、実際のケースの話をお聞かせいただき、状況を見ているところである。
- ・中山間地における障害のある方の支援については、サポートおおすぎの西山部会員から、中山間地にお住まいの方でサービスに繋がった事例や、サービスが終了したという事例を提供していただき、課題を共有したところである。
- ・身寄りなし問題と障害のある方の住まいのあり方については今後検討予定である。
- ・「上越地域強度行動障害支援者連絡会」は、強度行動障害のある方の暮らしの充実を図るために、支援者同士のネットワークを構築し、地域福祉の推進に寄与することを目的として設立した。
- ・参加予定事業所に対し、先般、片桐部長と市事務局が一緒に出向いて参加を呼び掛けた。
- ・参加を予定されている方は、施設管理者やサービス管理責任者としている。
- ・主な活動としては、定期連絡会の開催、強度行動障害児者か支える人材の育成及び把握、困難ケース等のケース検討。支援手法を学ぶための勉強会や研修会の企画運営、メーリングリスト等による意見・情報交換などとしている。
- ・今後、具体的な話し合いとなるが、8月末に一度集まる予定となっている。

《質疑応答》

【参加者 松原】

- ・検討項目として5項目挙がっているが、全て検討となっている。
- ・要は最終的にこの5項目について、どういう結果を出したいのかという目標自体が何も見えていない。
- ・よって、このままでいくと検討のための検討で終わってしまう。
- ・ヘルパー不足に対しては具体的にどういう形にするのか、それぞれ重度訪問介護についても、皆さん日常を支援しているわけであることから、ここで検討したことを実際やってみる等、そういうような形である程度結論を引き出せるような活動にして、座学だけじゃなく、ともかく一つでも二つでも結果を出すようにしていただきたいということが要望である。
- ・強度行動障害の連絡会の立ち上げについて、今後、関係者が連携していくということであれば、立ち向かうという気持ちを新たに持っていただき、強度行動障害の課題に立ち向かっていただきたいと思っている。

【大久保座長】

- ・くらし部会の中で共有いただき、今後の成果をどう導き出すかは検討いただきたい。

【権利擁護部会 山口部会長】※資料1-5により説明

- ・昨年度から「精神障害がある方の入院期間を長期化させないために必要な支援」をテーマに議論を重ねてきた。
- ・部会の構成員がほぼ地域や病院の相談員なので、昨年度は、それぞれの相談者が実践の中で感じる4つの退院を阻害している要因を整理してきた。
- ・地域と病院とのギャップ、社会資源の不足、役割分担の明確さ、あと権利擁護のマインドの弱さの4つの課題があった。
- ・今年度の取組方針としては大きく二つあり、実態調査、権利擁護意識の向上、相談スキルを高める研修会を検討しようと取り組んでいる。
- ・一つ目の入院の実態調査については、そもそもこの調査の目的を整理し、昨年度の課題整理の裏付けや、それが量的にどのくらいあるのか、それ以外にも新たな課題があるのではないかということで、現在、実施に向けて準備しているところである。
- ・これまで実施された既存調査の活用で大体当たりを付けてはどうかということで、県が主催する会議の中で、入院の実態を調査したものや630調査と呼ばれるものがあったので、それも活用させてもらいながら、部会としてはどういうことを知りたいのかを整理して、今回アンケート様式をまとめた。
- ・私たちが知りたいのは、入院者数もそうであるが、どうしてこう退院ができないのか、阻害要因を確認させていただき、ある程度治療が進んで落ち着いているのにもかかわらず、何らかの要因で退院できない方が、どのような支援が必要かを考える基にしたいと考えている。
- ・アンケートを送るだけではなく、市内に4院ある精神科の病院へ部会員と市事務局と一緒に伺い、丁寧にこの目的を説明させていただいた上で、調査への協力を呼び掛ける予定である。
- ・結果を部会の中で分析した後に、病院のワーカーにヒアリングも実施する予定である。

- ・また、昨年度の検討の中で、当事者の力を活用するというような動きもあり、夕映えの郷の実践をお聞きしたところ。
- ・障害福祉計画にも当事者の力を活用するという文言もあることから、支援の中で当事者の力を活用する可能性の認識も、問うてはどうかと感じている。
- ・二つ目の研修については、長期入院の課題に絡め、地域移行における当事者の力ということをテーマにした研修会を計画した。
- ・埼玉県にあるやどかりの里から、実際にその障害福祉事業所にお勤めのピアサポーター、当事者の方と職員の方に講師として来ていただき、福祉事業所でありながら病院に退院される方の支援ということをピアサポーターも加わり、いろいろと支援されていらっしゃる。
- ・実践の話をお聞きし、上越地域の長期入院の患者さんの支援の切り口の一つとなり得るのかどうかという点を一緒に考える機会とさせていただきたいと思っている。

《質疑応答》

【参加者 松原】

- ・入院期間を長期化させないということで、国も色々な施策を展開している。
- ・例えば、医療保護入院や措置入院の場合には、入院後7日以内に生活環境相談員を選任するが義務化されている。
- ・その他として、医療保護入院の場合は、病院内に退院支援委員会を設置することが法律で定められており、地域援助事業者を紹介することが義務化されている。
- ・このような制度の中であって、このような問題が生じているということは、制度があまり機能していないということか。
- ・要するに、病院が積極的に取り組んでいないという結果なのかという点についてお聞きしたい。

【権利擁護部会 山口部会長】

- ・法改正により社会資源を整えつつあると思っているが、阻害している要因を調べているところである。国の制度的な流れがあり、医療保険、医療制度の中でも拡充され、障害福祉サービスでも「地域移行」や「地域定着」の制度がある中で、実際には進んでいない実態があると思われるので、病院の担当者の方に課題について聞き取り、今後の検討に生かしたいと考えている。

【参加者 松原】

- ・現在、制度が機能してないということか。

【権利擁護部会 山口部会長】

- ・それも含めて実態を把握していきたい。

【当事者部会 小林部会長】 ※資料 1-6 により説明

- ・昨年度、テーマを「災害」と「コミュニケーション」に決め、今年度、取り組みを始めた

ところである。

- ・取組方針として、まず、当事者部会の共通のルール、グラドルールを決めた。
- ・そして、災害とコミュニケーションの2つのテーマについて協議した。
- ・その場では、皆さんにとって意見は出しにくいので、事前に意見記入シートを配布し、記載していただいた上で、それを基に話し合いをしている。
- ・5月21日に第1回目の部会を行った。災害といっても様々で、地震・津波、風水害、雪害とあるわけだが、様々な場面によって災害の困りごとが変わってくるということで、場面ごとに参加者の皆さんから意見を出していただいた。
- ・場面は、自宅や職場、通所先、外出時、移動中で、参考資料のとおり、当事者の皆さんから、意見を出していただいた。
- ・第2回目の部会は8月27日に予定しており、自分たちができること、現在、自分自身が工夫して取り組んでいることを発表してもらいながら、最終的には自分たちの力だけでは対応できない事柄があると思うので、そういったことをある程度まとめ、今後、市の災害対策に反映できるようにしていきたいというのが、今年度の目標として取り組んでいるところである。

《質疑応答なし》

③ 内容(2) 次期障害福祉計画の策定に向けた障害のある人等の実態調査について(説明)

【事務局 北島】

- ・調査の考え方について、調査根拠、必要性、調査の目的については資料のとおりである。
- ・調査方法について、調査期間は、令和7年9月の1か月間を予定している。また調査方法について、層別抽出法によるアンケート調査により無記名で、回答方法は郵送とインターネットを予定。
- ・今回の調査からインターネットを新しく追加している。郵送またはインターネットどちらかで回答していただくということで進めていく。
- ・インターネットを活用した調査は色々なところで使われているが、障害のある方の中にはやはり回答が難しいという方もいらっしゃると思うので、併用という形で進めていく。
- ・対象者については、障害児通所サービス利用者の保護者、障害福祉サービス利用者、障害福祉サービスの未利用者の3分類。
- ・対象者数は、1,500人で、この対象者と対象者数については、例年同様である。
- ・今後のスケジュールについて、アンケート調査項目について、8月25日までに全体会参加者の皆様から意見を伺い、いただいた意見を必要に応じて反映しながら9月に調査実施したいと考えている。
- ・アンケート調査票については2種類で、障害者用と障害児用。本会では案という形でお示ししている。
- ・基本的に、計画作成のたびに調査を実施しているが、前回調査と比較し、回答者にとって分かりやすい、回答しやすいようにとの観点による体裁などの変更はあるものの、項目の大幅な変更はない。

《質疑応答なし》

【参加者 西山】

- ・対象者数 1,500 人となっているが、全体の母数はどれくらいか。

【事務局 小松】

- ・全体の母数は、精神、療育、身体の手帳所持者ということで 1 万人程度である。
- ・その中の 1,500 人を抽出して例年、調査を実施している。

【参加者 西山】

- ・障害児を対象者とした調査について、通所サービス利用者の保護者ということであくまでサービス利用がある障害児に限定されているように思うが、サービス利用がない方は調査対象としないものと、現時点で考えていないという理解でよいか。

【事務局 小松】

- ・児童については、前回の調査でもサービスを利用していない方を対象外としていたことから、今回も同様に対象としないものと考えている。

【参加者 西山】

- ・法律の趣旨に基づくのであれば、やはり障害福祉サービスを利用している、利用していないに関わらず拾い上げていくべきところなのではないかと、保護者の立場として申し上げたい。

【事務局 小松】

- ・意見として参考とする。

【参加者 松原】

- ・現在、新規の利用者を受け入れない事業所があるなど、要するに人手不足を理由に障害福祉サービスを使いたくても使えない状態にあって、そのような方が一定数いると聞いている。その辺りも考慮しながら集計をお願いしたい。

【大久保座長】

- ・それに関しては、障害福祉サービス未利用者（18 歳～64 歳）のところで、希望しているが使えないというような声を拾えるかもしれない。

【参加者 西山】

- ・例えば、保護者の介護負担に関しての視点での設問はなくてよいか。保護者自身が自身の子どものケアについてどう受け止め、どう考えているかという視点での設問は必要ではないか。

【事務局 小松】

- ・いただいた意見を踏まえ、検討する。

【大久保座長】

- ・保護者が障害児の代わりに答える内容になっているので、実際に保護者の介護状況などの意見も聞けたらよいのではという提案だったので、検討していただければと思う。
- ・前回の調査結果との比較ということで、なるべく設問を変えないというところがあるかもしれないが、新しい視点で、必要なデータであればとっていただいてということになるのかと思う。
- ・9月実施ということで、スケジュールが非常にタイトなため検討するのが大変かもしれないが貴重な意見、提案として検討していただきたい。

③ 内容 (3)その他

特になし